

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001153		
法人名	有限会社 リトルデン		
事業所名	グループホーム おひさまの家		
所在地	〒800-0337 福岡県京都郡苅田町稲光1130番1 0930-25-8886		
自己評価作成日	平成26年07月10日	評価結果確定日	平成26年08月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が「心の故郷、終の棲家」と思って頂けるように、一人ひとりの思いに寄り添ってあげたいと職員全員の思いです。立地環境は「夢に見るオアシス」のように、木々いっぱいの山に囲まれ、毎朝小鳥のさえずりに目覚め、美味しい空気を吸って、夜は満天の星空と共に眠るのです。眺望に至っては小高い台地に建ち、平尾台も見え、四季折々の自然を全身で体感できる所です。心と体の健康づくりに昨年完成しました、ホーム専用の「おひさま公園」です。程よい距離にあり、利用者は毎日喜んで、足げに通っては「おやつタイム」を満喫しています。その姿はまるで「井戸端会議」を彷彿させます。利用者一人ひとりが大切な時を楽しく笑顔の中で過ごして頂けるように、職員はもちろん、家族、地域の方々も一緒に見守り良いひと時を送ることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の高齢者が住み慣れた環境の中で、充実した暮らしが出来るように12年前に開設した2ユニットのグループホーム「おひさまの家」がある。小規模多機能ホームと有料老人ホームを併設し、高齢者や家族が、安心して最後まで任せられるホームを目指し、職員一人ひとりの意識を高め、介護技術とチーム力をつけて、利用者の終末期の支援に取り組んでいる。重度化しても、毎日散歩が出来るように、敷地内に「おひさま公園」をつくり、東屋で弁当やおやつを食べ、四季の香りを利用者に感じてもらう、生きがいに繋げている。24時間、ホームドクターによる往診体制を確立し、常勤看護師と、介護職員の連携で、利用者の健康管理は万全である。また、勤続年数の長い職員が多く、ベテラン職員による心を込めた介護は、家族の高い評価に結び付いている「おひさまの家」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成26年07月29日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有により管理者、職員はケアプラン等の反映に努め、日々の実践に繋げている	ホームが目指す、介護サービスのあり方を明示した理念を掲示し、職員は毎朝唱和している。職員は、理念の意義を理解し共有して、利用者一人ひとりを尊重し、明るく楽しく生活できるグループホームを目指し、日々取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の方が地域に馴染み、地域との交流の場としてホーム専用の公園を解放し、交流出来るよう計画を立てている	自治会に加入し、利用者と職員は地域の一員として、清掃作業や公民館活動に参加している。ホーム専用の「おひさま公園」で行われるホームの夏祭りには、家族や地域住民がボランティアで大勢参加し、活発に交流している。また、地域の集会所で、「認知症について」の講演を実施する等、地域に向けての発信も始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協等の依頼により、地域等の集会場にて「認知症について」の講演・説明をする機会が増える		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は2月毎の開催により家族、地域住民、行政との参加により、活発な意見交換が出来ている	会議は、小規模多機能ホームと合同で2ヶ月毎に開催している。会議の充実を図るため、1年の内何回かは行事を兼ねて開催し、家族の参加も多く、家族から行政職員に直接質問が出される等、有意義な会議になっている。出された意見や要望は検討し、出来る事から速やかに実施できるように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の研修には積極的に参加し、自己研鑽、スキルアップに努め、SOSネットワークに参加し、市町村との連携体制が出来ている	行政主催の研修会やSOSネットワークに参加し、社協の要請を受け、集会所で認知症に関する講師を務める等、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に行政職員が出席し、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」を職員一同で掲げ、本人の尊厳性を重視し、徹底を図っている	外部の研修会に参加し、内部研修で職員全員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者の立ち上がり行為についても、職員が一人関わる事を徹底し、納得してもらう事で落ち着かれた。また、玄関の鍵は日中は施錠せず、利用者が職員の見守りの中で、自由に出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のカンファレンスにより職員間で互いに振り返り、見つめ直すことを意識し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政研修等に参加し、理解を深め利用者の現状を確認し、施設長、管理者は必要性を関係者と話し合い、活用を支援している	行政主催の研修会に参加した職員が、勉強会で報告し、日常生活自立支援事業や成年後見制度が、利用者や家族にとって重要な制度であることを理解している。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から問い合わせがあった時、何時でも支援出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2名同席し対応とする。又契約前に事前説明会を実施し、ホームの概略を説明後に一時契約書類を前以て渡し、目通し後、改めて本契約日に疑問点、補足を十分説明させていただき、双方納得の上で契約を締結している		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対し、個々対応時にその人の思いが少しでも聞けるよう、時間を持ち、それらを集約、検討(ミニカンファレンス)し、反映できるようにしている。又、家族、関係者の来所時に、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、家族等の思いも反映できるようにしている	行事を兼ねての運営推進会議を年に数回開催する事で多くの家族が参加し、家族同士の関係も出来て、家族から意見や相談がよく出るようになった。家族の意見や要望を聞き取り、ホーム運営や介護計画に活かしている。また、事業所便りを送付し、利用者の様子を伝え、家族の安心に繋げ、電話等でも要望を聞き取っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との話し合いの場を、施設長、管理者は持ち、職員からの意見を十分に聞き入れ、活かせる場を設けている。運営に参加をしている自覚が持てるように努めている	毎日、午後10分間カンファレンスを実施し、職員の気づきを報告し合っている。必要に応じて全体会議を開催し、意見を言い易い雰囲気の中で活発に意見が出され、出された意見や要望は、業務改善や介護計画に反映している。職員の意見を反映する事で、職員が自覚を持って業務に取り組む事が出来ている。	法人の中に三事業所があり、常に連携体制を取る為にも、職員同士の協力やチーム力が必要で、定期的に法人全体会議を開催し、各事業所の運営状況を職員一人ひとりが理解し、アイデアを出し合い、更なる飛躍を期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が業務全般においてレベルUPする姿勢、実績を冷静に捉え、職員間の信頼関係を培い、やり甲斐のある仕事、誇りの持てる介護職と思えるように職場環境を整備する。各自が前向きに取り組む状況を適正に判断し、給与水準を考える		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、性別、年齢の制限はない、一ヶ月～三ヶ月の試用研修後に施設長、管理者と双方で話し合い、納得の上で入社している。職員の勤務時間等は条件、希望を聞き、ローテーションを作成し、働きやすい環境づくりをしている	職員の募集は、人柄や介護に対する考え方を重視し、年齢や性別、資格等の制限はない。採用後は新人研修やスキルアップ研修で、職員の介護技術の向上を目指すと共に、職員の「学びたい」を優先し、シフトを配慮して組む等、職員一人ひとりのモチベーションを高めている。また、職員間の協力体制が強く、働きやすい職場環境であり、職員は定着している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育研修への参加にて内部研修の場を設け、職員全体に行き渡るように努めている	外部の人権研修会に参加した職員が、勉強会で報告し、利用者の人権を尊重し、安心した暮らしを支える介護について話し合い、自覚を持って実践に向けて取り組んでいる。また、理念を毎日唱和する事で、職員に対する意識づけを行う等、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会受講希望者の職員には、勤務時間等を調整して受講を支援し、社内に反映する。施設長、管理者は職員の得意、不得意を把握し、得意分野で大いに活躍できるように支援している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会の「通所ケアサービス連合会」に参加し、情報交換、勉強会、技術、ケアの交流会を図っている 職員同士の相互訪問の活動により、介護サービスの向上、より良いホーム作りに活かしている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人のホーム見学や体験入所を通じて、馴染みの関係をつくり、登録後は本人、家族からの聞き取りを基に、暫定プランを作成し、本人の思いを尊重しながら少しずつホームに慣れて安心して通所通いが出来るように支援する		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族の意向、要望を傾聴し、全面的に安心されてホームに託していただけ様にする共に良き信頼関係を築けるように努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入するにあたり、本人にとって必須項目を掲げ提案し、今必要とするサービス、支援を段階を踏まえてサービス提供できるように努めている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は共に暮らし、学び、支え合う関係である。職員はどんな小さなことでも頑張っていることを、見逃さず、寄り添い、一緒に頑張っていることを支援している		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者と家族の架け橋となるよう、サポートの役割に徹し、本人の思い、生活状況を家族に受け入れやすいように伝える。本人、家族の双方からの信頼を培うことで、より協力を得ることができ、3者の絆のバランスが保てるように努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係者等の聞き取りを行い、本人がこれまでに大切にしてきたこと、習慣的に行っていたことを継続できるよう支援し、関係が途切れないように努める	利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関係について、入居時に、利用者や家族から聞き取り、職員が利用者一人ひとりに合った関係継続の支援に取り組んでいる。また、地域からの入居者も多くなり、家族や親戚の面会も増えている。ゆっくり話が出来る場所やお茶の提供をして、面会しやすい雰囲気作りを心掛けている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の状況を観察しながら、利用者同士の相性を把握し、気の合う利用者同志が寄り添い、支え合えるように支援し、時には職員が仲立ちを手伝い、孤立化とならないように、目配り、気配りをしながら、みんなで関わりあえるように努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、後に相談等の申し出があれば、いつでも受け入れる旨を伝え、関係が途絶えることがないように、相談、協力、フォローに努めている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で変化を察知し、思いを感じ、希望に添えるように努力している。意向の表現が困難な場合、過去の既往歴、家族知人等に相談することにより、本人本位の支援に努めている	毎日のミニカンファレンスで気付きを共有し、職員は、利用者個々の思いに沿った支援に努めている。また、食後は直ぐに席を立たず、利用者と職員と一緒に話しをする時間を大切に、利用者の思いや意向を聴く機会にもなっている。意向表出が難しい利用者には、ベテラン職員が寄り添い、思いに近づけるよう努力している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を理解、考慮した上で共に生活していく中で改めて、本人、職員の目線で追って把握していくことにしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日が心地よい生活時間となれるように、その人らしさを尊重することを基本とし、自分の力が十分に発揮できるように努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のケアプランは、その方の視点に立ち、家族の意見や希望を聞き、立案している。利用者の状態変化があった場合には、その都度、プランの見直しを行っている	利用者の、「こうなりたい」を大切に、家族の思いを取り入れたプラン作りに取り組んでいる。担当者会議の中で、職員間で話し合い、主治医の意見を参考にし、利用者本位の、型にはめない介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に備え、家族と常に連絡を取りながら、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の介護計画が十分に活かされるように、職員間で日々の経過観察、気づき、変化等を共有しながら運動した記録を定期毎に見直し実践へと反映している		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者にとって毎日が変化に遭遇します。その変化に職員は瞬時に対応する適応力が必須です。限られた枠内のサービスに捉われない、今利用者が求めていることに今答えられる柔軟性ある支援を心掛けています		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中の住民意識を持ち続けるように支援し、地域の行事には積極的に参加し、自分の力が発揮できる機会を設け、自信と挑戦に意欲が持てるようにする。継続する中で新たな思い、楽しさを味わっていただけるように支援する		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医を決めている、医療との連携を図れるように、観察、記録を十分に行い支援している。急変時に関してホーム提携医、救急病院を利用する旨を納得してもらっている	契約時に医療支援について話し合い、利用者のかかりつけ医を優先している。受診ノートに、ホームからの報告と医師からの指示を記入し、情報の共有に努めている。また、ホームドクターによる往診や、急変時の救急病院も確保し、利用者が24時間安心して暮らせる医療体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	高齢につき、日常生活においての異変に早期に気づき、ホーム看護師に的確にホウ・レン・ソウの徹底、指示に従い利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は不安の軽減に努め、出来るだけ職員は出向いて安心されるように心掛け、病院関係者との情報交換を図り、早期退院へとされるようにする		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関し、利用者、家族に事前説明を行い、医療との連携を図りながら支援している。本人、家族の意向を確認し、職員全員で共有できる体制をとっている	契約時に重度化、ターミナルケアについて話し合い、利用者や家族の希望を聞き取り、ホームで出来る支援について了承を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の介護方針を話し合い、職員全員が方針を共有し、利用者が一日でも長くホームで暮らし続けられるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームDrのアドバイスをもとにホームの看護師、リーダーを中心に利用者急変時の対応の勉強会(随時情報伝達)を密に心掛け、早期発見、早期対応を全員で徹底している。決して自己判断はせず必ず担当者に早期の連絡に努める		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	警報機等を設置し、防火訓練も実施している、推進会議にて地域との連携が図れるよう呼びかけを行っている	消防署の協力と指導を得て、非常災害を想定した避難訓練を実施し、地域住民に参加してもらい、通報装置や消火器の使い方を実践し、利用者を避難場所まで安全に避難誘導する体制を整えている。また、毎月、自主防災組織による夜間想定避難訓練を実施し、非常食、飲料水の備蓄も準備している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のその人らしい尊厳を守れるよう、プライバシーに心掛け、声掛けに注意している。寄り添いの言葉掛けを行っている	職員は、利用者一人ひとりの人間性を大切に、支援が必要な時も、あからさまな介護にならないように配慮し、利用者の「自己選択、自己決定」を優先した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、利用者の居室の表札は苗字のみの記載にする等配慮している。職員には、「笑顔の接遇」「より良い声掛け」を徹底している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者を観察する目を養い、利用者の心情を理解し受け留めることを心掛け、本人の自主性、意向が的確に反映でき、納得された自己決定となれるように支援している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人にとって好まれることを優先し、職員は一人ひとりのペースを理解、把握しながら日々の生活が本人にとって負担にならないように充実した時を刻んでいただけるように支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれは心のときめきを誘います。その人らしさが身だしなみに目覚めて、おしゃれすることに関心を持ち周囲からホメられる「喜び」を実感し、毎日の生活がおしゃれすることで楽しみが生き甲斐と元気のパワーになれるように支援している		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方による「私のできる事」の中に、テーブル拭き、お盆並べ、食器拭きなど自主的に行われている。食事時の会話の中で、「何が食べたい?」と聞き、メニューに取り入れている	「食は元気の素」「美味しく幸せな食事」をモットーに、職員が想いをこめた手作りの食事を提供し、季節感や利用者の好みを大切にしたセレクトメニューや手作りのおやつは好評である。テーブル拭きやお盆並べ、食器拭き等、利用者の出来る事を発揮してもらっている。利用者の希望により、回転ずしを食べに行く等、外食の支援も行い大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調、体型を考慮し、食事量や水分量が適正に摂取されるように確認している。個人の力に即した食事形態、水分摂取法も職員間で工夫しながら利用者が適量に確保できるように支援している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には口腔の働きを促し、食欲増進のため「口腔体操」をし、食後は個人レベルに応じた口腔ケアを支援し、訪問歯科医のアドバイスを参考に歯の手入れ法口腔内の清潔保持に努めている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「トイレでの排泄を目標に!!!」職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、無理のないように支援する	「最後までトイレに行こうね」を合言葉に、安易にリハビリパンツやオムツを使わないよう心掛け、トイレでの排泄を支援している。職員は、利用者の排泄チェック表や、習慣からタイミングを計り、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘対策に重視し、飲食物の摂取に工夫し、適度な全身運動を行い、一人ひとりの排便パターンをチェックしながら排便コントロールを促し、予防を図る		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設の施設の利用により、毎日入浴することが可能であるため、利用者の体調不良の方も日替わりで入浴を楽しむことができる。	入浴は、利用者の体調や、その日の気分に合わせて行なっている。その日に入浴できない時には、「隣の温泉に行きましようか」と声をかけ、併設施設を利用している。入浴時には、利用者に「今、思っている事」等、色々な話をゆっくり時間をかけて聴いている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣性を踏まえ、必要時に応じ午睡を設け心身をリラックスさせることで夜間が安眠へと誘導ができるように支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬表を作り職員が内服薬の作用等を把握と理解したうえで薬とする。体調の変化時は観察を記録し、異変時には速やかに主治医へ連絡し、指示を仰ぐこととする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割やお手伝いをお願いし、出来たことに感謝しホメ、喜びを共有する。季節毎の作品作り、カレンダー作り、などみんなで共同で作りに上げていくプロセスの中で協力心、助け合う心が生じ、仲間意識が育まれている。場と機会を支援している		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	利用者と共に、野外レクリエーションや買い物、外食、近所散策など、利用者一人ひとりに合わせて配慮し支援している	利用者専用の公園を造り、東屋を建て、四季折々に花や景色を楽しむように環境を整え、公園への散歩は日課となっている。利用者と一緒に町内の缶拾いに参加したり、買い物、ドライブに出かける等、利用者が戸外に出掛けて気分転換出来るよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から要求の申し出がある時には、本人の希望、力に応じ支援する。金銭管理可能な方には出来る限り本人の意思で買い物ができる機会をつくり家族同行職員同行にて支援はしている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らの要望には全面的に協力惜しみません。電話の取次ぎ、手紙では共に文面を考え、本人の親しい関係者との交流をそのまま維持できるように支援している		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、職員は共同にて四季を感じられる、手作りの作品をつくり、暮らしやすい共用空間を演出している	緑に囲まれた見晴らしの良い自然環境の中で、利用者は、リビングルームや居室でのんびりと自由に過ごし、仲の良い利用者同士で話し込んだり、職員と一緒に作品作りやゲームに熱中している。心のこもった掲示物や季節感溢れる演出で、利用者が「我が家」と感じる事が出来る温もりのある共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で孤立することなく、デッドゾーンが生じないように配慮し、自由に行き来をたのしみに、誰とでも交流ができる機会を職員が中間になり支援する。境界なくみんなが思いのまま過ごせるように工夫する		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「終の棲家」として、本人がやすらぎ、居心地の良い自室づくりを本人、家族と共に演出している	利用者が使い慣れた馴染みの筆筒や椅子、ソファや鏡、家族の写真等を持ち込んでもらい、自宅と違和感のない環境の中で、安心して穏やかに暮らせるよう配慮している。窓の外には日よけのよしずを下げて、温度や湿度、採光にも配慮し、清潔で居心地良く過ごせる居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を理解し、活動できる場を設けできた事の一つでも多く見つけ出し、自信と生きがいに繋げるように、安全、万全とした環境整備に重視し、共に明日へと続けるように心より支援している		